

カリキュラム(計画) 日本語指導が必要な児童生徒等支援研修会(掛川市)

作成者 氏名：南里 哉子

養成・○研修 / 基礎・○専門・○支援員 (該当するものに○)

★参照したモデルプログラムNO. (報告書 pp. 207-244) 下線：内容・項目 (pp. 72-76)

日時・場所	2018年7月5日(木)13:30~16:15(165分) ※内講義115分		
実施団体・機関	掛川市教育委員会		
研修・授業名	日本語指導が必要な児童生徒等支援研修会(掛川市)		
受講者	・人数：30名 担当教員25名(内2名加配教員)・市雇用支援員4名・市教委担当者1名		
演題・テーマ☆	立場や役割に応じた日本語指導を考える		
到達目標	それぞれの立場でできる支援方法を理解し、支援に対する意欲を高める。		
	活動展開 (分)	★ 形態	留意点
	導入：(20分) ・掛川市における外国人児童生徒受入れ体制の現状について(掛川市教委)(10分) ・愛知県、岩倉市における外国人児童生徒受入れ体制の現状について(10分)	⑤ 講義	
	展開1：(45分) ○岩倉東小の事例を通して、外国人児童生徒にとっての教師・学校の意味について知る。 ☆子どもたちの支援に関して、学校の役割・教員がすべきことは？ ○具体例の検討を通して、学校文化の違いとそれに伴う子どもたちの戸惑いについて理解する。	② 講義	
	展開2：(20分) ○保護者への情報伝達の具体的な方策を考える。	⑧ 講義 活動	
			参考資料

<p>展開：3（30分）</p> <p>○事例に対して具体的な支援方法を検討する。</p> <p>例：</p> <p>①日本生まれの小学3年生。日常会話はでき、ルビがあれば文章もすらすら読めるが、文章の内容が理解できない</p> <p>②来日して数か月の小学6年生。片仮名の読み書きはまだ定着しておらず、取り出しの教室では仮名の練習ばかり行っている …など</p> <p>○岩倉市で使用されている教材・支援方法をご紹介いただく。</p> <p>モジュール指導について</p> <p>まとめ：</p> <p>○グループ協議（30分）</p> <p>自校での実践、対象の子の情報などをもとに、どう支援していくかをグループごとに話し合う。</p> <p>○まとめ（10分）</p> <p>講義、グループ協議をふまえて、今後実践に生かせそうなことを発表する。</p>	<p>⑰</p>	<p>講義 活動</p>	<p>グループ協議から進行は掛川市教委へ戻る</p>	
---	----------	------------------	----------------------------	--